

令和5年度 第9回千葉県環境影響評価委員会 会議録

1 日 時

令和5年10月25日（水） 午後1時30分から午後16時10分まで

2 場 所

Web会議形式

3 出席者

委員：菊地委員長、齋藤副委員長

井上委員、大瀧委員、近藤委員、高橋委員、八田委員、

酒井委員、水田委員、安立委員、本間委員

（11名）

事務局：環境生活部 江利角次長、熱田環境対策監

環境政策課 青柳課長、田中副課長、高橋班長、石橋主査、

今川副主査、岩城副主査

傍聴人：5名

4 議 題

- (1) (仮称) 千葉袖ヶ浦天然ガス発電所建設計画に係る環境影響評価報告書（再手続版）について（審議）
- (2) (仮称) 株式会社T&Hエコみらい廃棄物焼却処理事業に係る環境影響評価方法書について（審議）
- (3) その他

5 結果概要

- (1) (仮称) 千葉袖ヶ浦天然ガス発電所建設計画に係る環境影響評価報告書（再手続版）について（審議）
事務局及び事業者から資料に沿って説明があり、審議が行われた。
- (2) (仮称) 株式会社T&Hエコみらい廃棄物焼却処理事業に係る環境影響評価方法書について（審議）
事務局及び事業者から資料に沿って説明があり、審議が行われた。
- (3) その他
特になし。

審議等の詳細については別紙のとおり。

[資料]

- 資料 1-1 (仮称) 千葉袖ヶ浦天然ガス発電所建設計画に係る環境影響評価手続の状況等について
- 資料 1-2 (仮称) 千葉袖ヶ浦天然ガス発電所建設計画に係る環境影響評価方法書(再手続版) 委員から寄せられた質疑・意見に対する事業者の見解
- 資料 1-3 (仮称) 千葉袖ヶ浦天然ガス発電所建設計画に係る環境影響評価方法書(再手続版) についての意見の概要と事業者の見解
- 資料 1-4 市長意見の提出状況
- 資料 1-5 答申案審議に向けた論点整理 [(仮称) 千葉袖ヶ浦天然ガス発電所建設計画に係る環境影響評価方法書(再手続版)]
- 参考 1-1 前回の方法書に対する知事意見への対応等
- 参考 1-2 空気冷却方式の復水器の国内事例(アセス対象)について
- 資料 2-1 (仮称) T&Hエコみらい廃棄物焼却処理事業に係る環境影響評価手続の状況等について
- 資料 2-2 (仮称) T&Hエコみらい廃棄物焼却処理事業に係る環境影響評価方法書 委員から寄せられた質疑・意見 に対する事業者の見解
- 資料 2-3 答申案審議に向けた論点整理(たたき台) [(仮称) T&Hエコみらい廃棄物焼却処理事業に係る環境影響評価方法書]

別紙 審議等の詳細

議題（１）（仮称）千葉袖ヶ浦天然ガス発電所建設計画に係る環境影響評価報告書（再手続版）について（審議）

○事務局より資料１－１及び資料１－２について説明。

質疑なし

○事業者より資料１－３について説明。

（委員）

前回の委員会で、暖気について、地表付近の影響だけではなく、高さ方向と水平方向の三次元的なシミュレーションをお願いしたところ、可能な限り対応するとの回答があった。今回、一般の方からも暖気についての懸念の御意見が寄せられているが、暖気の影響についてはアセスメントの対象にはならない。委員会には、シミュレーションの結果を開示いただけると言うことだが、一般の方も閲覧できるのか。

（事業者）

資料の示し方は、事務局と相談したいと考えている。委員会で参考資料として示すのであれば、県のホームページで公表されることになる。また、準備書の説明会で概要を示すという方法もある。

○事務局より資料１－４及び資料１－５について説明。

（委員）

資料料１－５の（２）大気質のイで、どれくらい暖気の影響を及ぼすが分かっていないので、「逆転層が発生し」と断言するのは、難しいと思っている。そのため、「上空に暖気の発生源があることで逆転層が発生する可能性があり、逆転層が発生した場合には、」と文書を修正してもらいたい。現行案では、逆転層が発生することが確実と読めてしまう。前

例もないため、逆転層が発生し得るかどうかも含めて確認してもらいたいという趣旨である。

(事務局)

御指摘のとおり修正する。

(委員)

真岡発電所の知事意見では、温排気と表現されており、表現としては、温風と温排気どちらが適切か。

(委員)

どちらも適切と思うが、真岡の知事意見では、おそらく暖気が地表付近の気温を上昇されるなど温度に着目した意見と思われる。この意見は、上層に暖気の発生源があることで空気の対流が妨げられるという意見で、表現としては温風の方が良いと思う。

(事務局)

事務局の考え方としては、温排気の場合は、大気質の排気ガスといった汚染物質を含むような言葉で使用しているため、今回は大気質への現象への影響を与えるものであることから、温風とした。

(委員)

排出される温風の温度は何℃くらいなのか。

(事業者)

詳細は検討中であるが、最大で外気温プラス20℃くらいの温風が排出されると考えている。

(委員)

熱を活用した上での温度ということでよいか。

(事業者)

可能な限り温度を回収した上で、排出される熱量である。外気温が低ければ、低い温度になる。運転条件や気象条件にもよるが、最大で20℃である。

(委員)

ガスタービンの入口燃焼温度は何℃くらいか。

(事業者)

入口燃焼温度は、1650℃の機種を採用する予定である。

(委員)

蒸気の流れを教えてください。

(事業者)

ガスタービンでは1650℃の燃焼温度になり、ガスタービンからの排気ガスは排熱回収ボイラーに入るが、排熱回収ボイラーでは温度が600℃まで下がる。さらに高圧、中圧、低圧の蒸気として回収して、蒸気タービンを回す。可能な限り熱量を回収した蒸気は、空気冷却復水器で冷却する。

(委員)

冷却に使用する水はあるのか。

(事業者)

冷却に使用する水はない。

(委員)

温風がでる場所は、地上から何メートルか。

(事業者)

空気冷却復水器は高さ約40mのものとなり、そこから温風が排出される。

議題（２）（仮称）株式会社T & Hエコみらい廃棄物焼却処理事業に係る環境影響評価方法書について（審議）

○事務局より資料２－１について説明。

質疑なし

○事業者より資料２－２について説明。

（委員）

廃棄物ピットの臭気対策について、ピットの中の空気を吸引して炉内で燃焼させる計画であるが、それは２炉両方で吸引するのか。いずれか片方の炉だけで吸引させる場合、炉の停止時における対策について懸念がある。

（事業者）

２炉でそれぞれ吸引する計画である。なお、定期修繕などで交互運転している状態であっても、能力的に１炉で十分な量を吸引して処理できる設計としている。

（委員）

２炉が同時に停止した状態における臭気対策はどうか。

（事業者）

廃棄物ピットを密閉状態にすることで臭気の発散を防止する計画である。

（委員）

承知した。

（委員）

資料２－２事業者見解、No. 12 の温室効果ガス等に係る見解について、補足説明では一酸化二窒素の発生源のみについて言及されているが、廃棄物の焼却や車両の走行により発

生するという事は、メタンについても同様に言える。メタンの発生量は微々たるものと考えられるところではあるが、準備書では一酸化二窒素と同様に、メタンの発生についても、算定式など算出根拠を明らかにした上で適切に示していただきたい。

(事業者)

二酸化窒素及び一酸化二窒素と同様に、メタンについても予測項目として適切に発生量を把握し、予測及び評価を行う。

(委員)

評価項目の選定について、施設の稼働に伴うばい煙又は粉じんの発生で土壌を選定している理由を教えてください。

(事業者)

施設の稼働に伴う土壌への影響については、ダイオキシン類のみを予測、評価することとしている。煙突排ガスによる影響について一般的に最も懸念されるものとして着目し、選定をしたところである。

(委員)

他の物質についてはどうか。

(事業者)

基本的には焼却施設により処理可能と考えている。

(委員)

承知した。

○事務局より資料2-3について説明。

(委員)

大気質のAについて、廃棄物の混合割合の変動がどのように有効煙突高さに影響するの

か。

(事務局)

廃棄物の混合割合により排ガス量が変動し、排ガスの吐出速度が変動する。その結果、有効煙突高さに影響する。

(委員)

排ガス量に変動が生じることで有効煙突高さが低くなることが考えられるため、その場合についても適切に予測、評価を行うことという理解でよろしいか。

(事務局)

そのとおり。

(委員)

水質について、湧出水の発生とは具体的にどのようなことを懸念しての意見であるか。

事業区域では自噴水の発生が見込まれるのか。または、事業区域は埋立地であって土壤に含まれる有害物質の影響を懸念されているのか。

(事務局)

事業区域は埋立地であり、比較的浅い深度で水が染み出てくる可能性があり、工事に支障が生じるなど、湧出水を排水する場合には、その影響についても適切に予測、評価を行うこととしている。また、委員から言及があった土壤に含まれる有害物質について、事業区域周辺ではふっ素及び砒素が検出される事例が確認されていることから、その影響についても懸念がある。